

摩耶山 1.5km(自転車10分)

登山口
神戸海星女子学院
小中高等学校・大学
葺合高等学校
筒井小学校
筒井台中学校

摩耶小学校
福住小学校
水道筋商店街
稗田小学校

① 歩行者のための道路空間づくり

今日は自転車を借りて摩耶山まで行って、ハイキングしようかな。

② 滞留・通行空間としての歩道橋

歩道橋にスロープがあるから車いすでも安全に山手道を渡れるよ。

今日はお祭り！ミュージアムロードを山車が通るらしいよ。

③ 市民が参加できる公共の場づくり

④ 移動手段を増やすマイクロモビリティ

HAT神戸エリアと灘駅を環状につなぐ遊歩道。犬の散歩に最適！

⑤ 道の一体感を演出する、連続した舗装

健康のためにトレーニング機器で体を動かそう！

⑥ まちへの滞留を促す小さな居場所

⑦ まちを維持する「ミニ・インフラハブ」

科学技術高等学校
神戸工科高等学校

⑧ 海と山をつなぐ緑のネットワーク

歩道橋の上から摩耶山が見える！神戸港の花火大会も見えるかも？

②

山から海までのランニングは景色もよくて気持ちいいなあ。

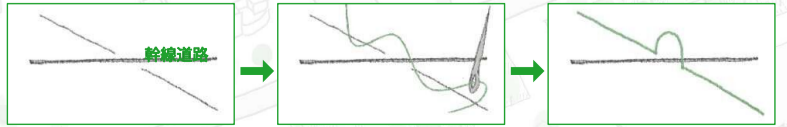
⑨ 緑のインフラとしてのまちなかビオトープ

今日の学校の課外授業はミュージアムロードの生き物観察。

**山から海へ
まちを縫い合わせる緑のミュージアムロード**

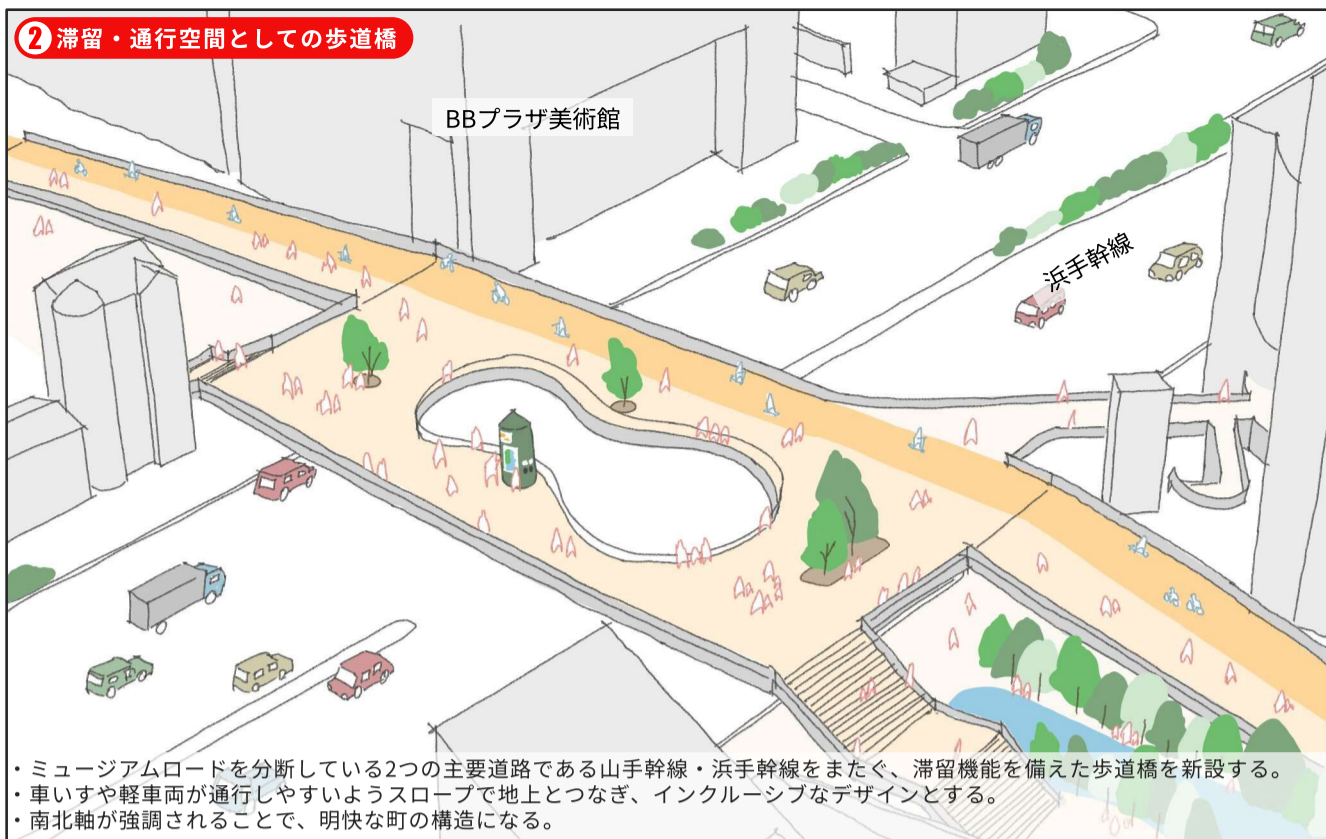
ミュージアムロードはまちを南北方向に通り、徒歩圏内には多数の文化施設や教育施設が集まっています。一方で、東西方向に大きな幹線道路や線路が複数通ることで、ミュージアムロードが分断され、それぞれの施設は孤立しているような状態であると感じます。ここでは、以下3つの観点から9つの具体例を提案します。

- A** 徒歩圏に点在する文化施設を結ぶ道路として、歩行者のLINK（通行）機能を強化し、歩いて楽しいまちを目指します。【具体案：②④⑤】
- B** 道路内のPLACE（滞留）機能を強化し、市民が滞在・活動できる公共の居場所をつくります。【具体案：①②③⑥⑦】
- C** 摩耶山～大阪湾をつなぐ緑のネットワークとして整備し、快適な屋外空間をつくります。【具体案：⑧⑨】



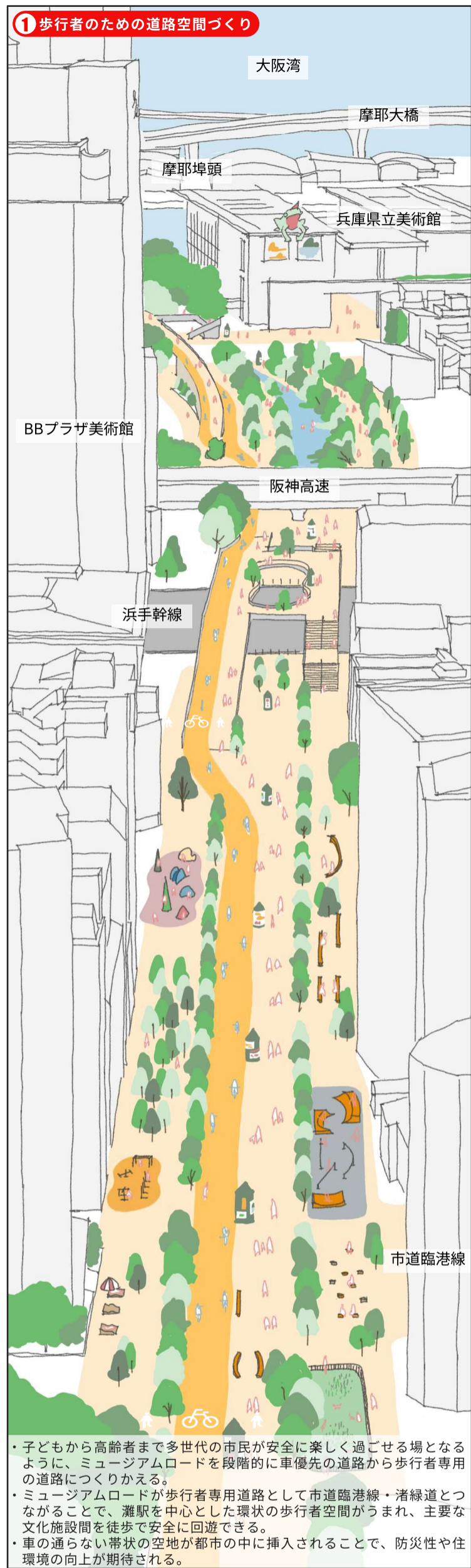
なぎさ公園
渚緑道
大阪湾
摩耶埠頭

2 滞留・通行空間としての歩道橋



- ・ミュージアムロードを分断している2つの主要道路である山手幹線・浜手幹線をまたぐ、滞留機能を備えた歩道橋を新設する。
- ・車いすや軽車両が通行しやすいようスロープで地上とつなぎ、インクルーシブなデザインとする。
- ・南北軸が強調されることで、明快な町の構造になる。

1 歩行者のための道路空間づくり



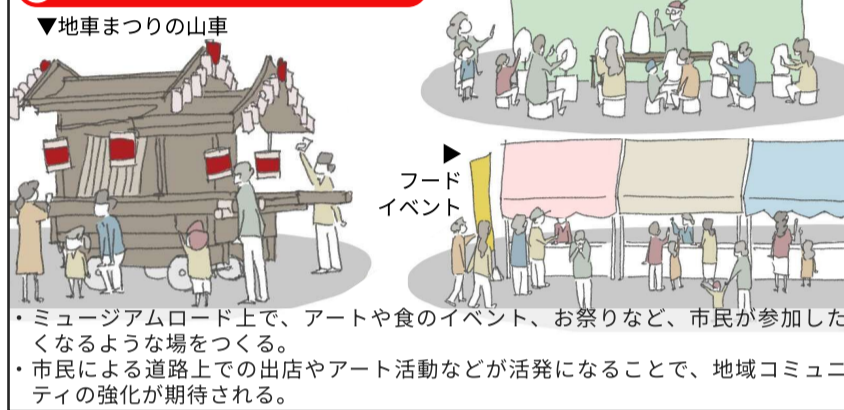
- ・子どもから高齢者まで多世代の市民が安全に楽しく過ごせる場となるように、ミュージアムロードを段階的に車優先の道路から歩行者専用の道路につくりかえる。
- ・ミュージアムロードが歩行者専用道路として市道臨港線・渚緑道つながることで、灘駅を中心とした環状の歩行者空間が生まれ、主要な文化施設間を徒歩で安全に回遊できる。
- ・車の通らない带状の空地が都市の中に挿入されることで、防災性や住環境の向上が期待される。

4 移動手段を増やすマイクロモビリティ



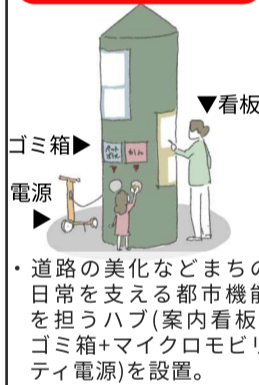
- ・マイクロモビリティのシェアリングサービスを充実させるなど、主要な文化施設間の円滑な移動を促す。
- ・マイクロモビリティの多様化を許容し、だれもが移動しやすいまちを目指す。

3 市民が参加できる公共の場づくり



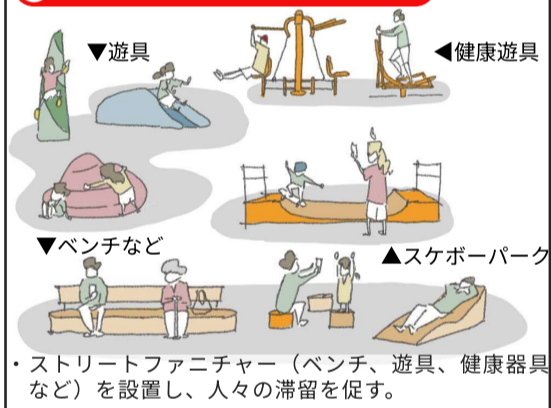
- ・ミュージアムロード上で、アートや食のイベント、お祭りなど、市民が参加したくなるような場をつくる。
- ・市民による道路上での出店やアート活動などが活発になることで、地域コミュニティの強化が期待される。

7 まちを維持する「ミニ・インフラハブ」



- ・道路の美化などまちの日常を支える都市機能を担うハブ(案内看板+ゴミ箱+マイクロモビリティ電源)を設置。

6 まちへの滞留を促す小さな居場所



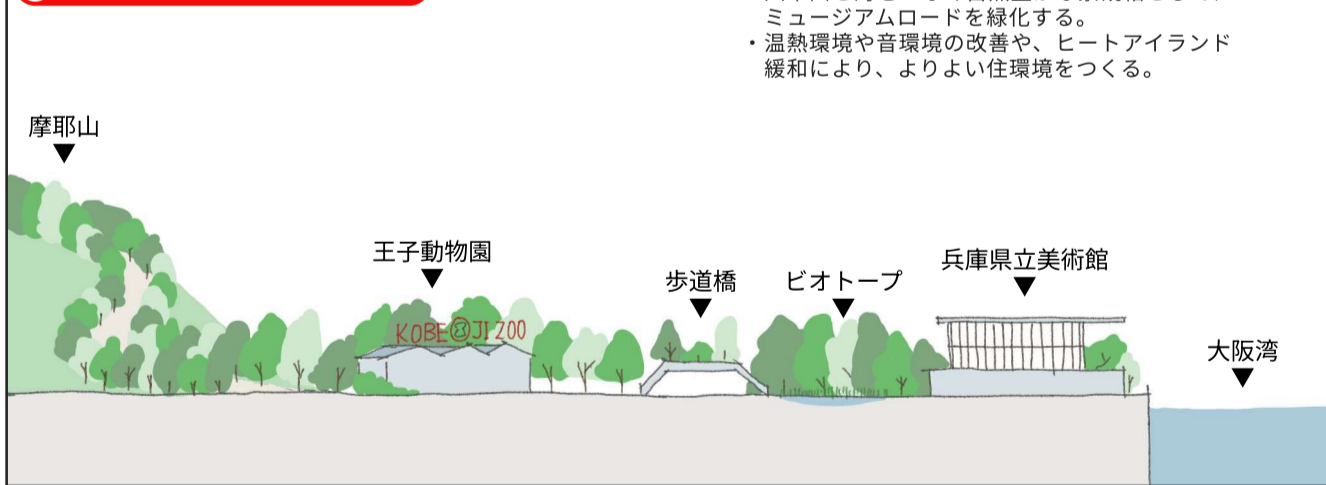
- ・ストリートファニチャー(ベンチ、遊具、健康器具など)を設置し、人々の滞留を促す。

5 道の一体感を演出する、連続した舗装



- ・ミュージアムロード全体で舗装を統一して一体感づくり、町の構造をわかりやすく。
- ・歩車道間の段差を無くし、色や素材の切替で車両と歩行者のエリアを安全に分割。

8 海と山をつなぐ緑のネットワーク



- ・六甲山と海をつなぐ自然豊かな景観軸として、ミュージアムロードを緑化する。
- ・温熱環境や音環境の改善や、ヒートアイランド緩和により、よりよい住環境をつくる。

9 緑のインフラとしてのまちなかビオトープ

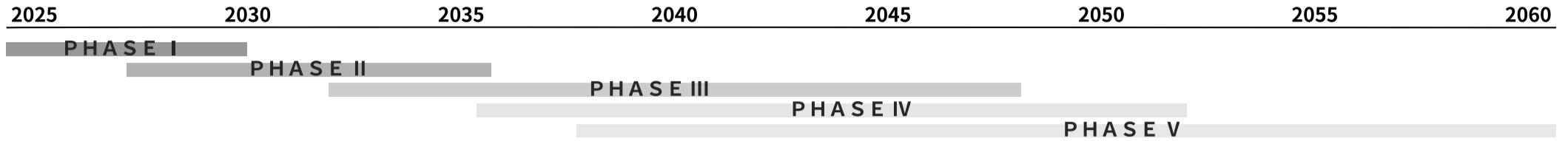


- ・都市のインフラの一部としてビオトープを整備することで、雨水の貯留により防災に寄与したり、地域の生態系を支える基盤となる。
- ・環境教育の場、地域の憩いの場としての機能を期待する。

未来のシナリオ案

現代の社会は先行きが見えにくく、未来を一つの確定した姿として予測することは難しくなっている。そのため、将来は「必ずこうなる」というものではなく、「このようになる可能性がある」という**複数の道筋の積み重ねとして捉えることが重要**である。とりわけ地域社会の環境は、人々の暮らし方や経済活動、制度の変化、自然条件など、さまざまな要素が相互に影響し合いながら成り立っており、その状況は常に変化している。このような背景から、**地域の将来像をあらかじめ一つに定めるのではなく、その時々条件や状況に応じて柔軟に考え方や対応を更新していく姿勢が求められる**。

ここではその考え方を踏まえ、**実際の事例と比較**しながら、9つの具体的な取り組みが実現した場合にこの地域がどのように変化するかを検討する。また、それぞれの取り組みについて、どのようなプロセスを経れば**実現可能なかを整理**し、段階的なスケジュールとして示すことで、**複数の未来像を具体的に想像し、検討する**ための手がかりとする。



PHASE I : 社会実験を通してミュージアムロードがまちの軸になり得るかを検証

1 歩行者のための道路空間づくり

休日に歩行者天国を実施。交通量や沿道エリアへの影響を確認。

3 市民が参加できる公共の場づくり

地車まつりや神戸港の花火大会などの地域のお祭りや、歩行者天国時に合わせて、イベントを行い、地域との関係を強化する。



▲渋谷区・新宿通り
毎週日曜日は歩行者天国となる。主要幹線である明治通りとの交差点を除き車の進入が制限されている。



▲ミュンヘン・ノイウハウザー通り
路内に設置された仮設のクリスマスマーケット



▲江別市・大麻銀座商店街
移動式本屋も訪れる地域の古書市



▲台東区/鳥越まつり
道路を練り歩く山車

PHASE II : 市民との対話から、小さな居場所をつかって実践を重ねる

6 まちへの滞留を促す小さな居場所

沿道にベンチや遊具を設置。



▲タルトゥ・エマヨギ川
川沿いの遊歩道に置かれた揺れるベンチでつるぐカップル。



▲マンチェスター・セントピーターズスクエア
広場の中間に置かれた幅広のベンチ



▲千代田区・TOKYO TORCH Park
遊歩道沿いの細長い公園に設置された築山状の遊具。



▲クラクフ・ヴィスワ川
川沿いの遊歩道に置かれたチェス盤つきテーブル。

PHASE III : インフラ更新に合わせ、風景を変えていく

5 道の一体感を演出する、連続した舗装

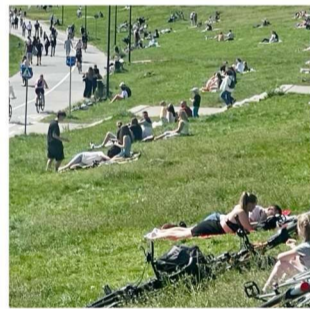
石畳やインターロッキングなど視覚的に楽しい舗装に交換し、歩車道間の段差を無くす。

2 滞留・通行空間としての歩道橋

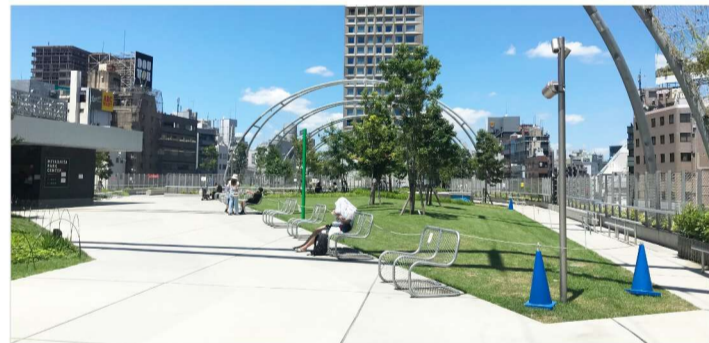
山手幹線、浜手幹線上も歩行空間の一部となることでミュージアムロードをシームレスに利用できるようにする。



▲プラハ・アンデル駅前広場
色の違う石で車、トラム、歩行者、軽車両を区画。



▲ワルシャワ・旧市街



▲渋谷区・MIYASHITA PARK
民間の商業施設の上に乗せた屋上。道路と地続きの公共空間。

PHASE IV : ミュージアムロードを歩行者のための空間へ。まちの構造を転換する

1 歩行者のための道路空間づくり

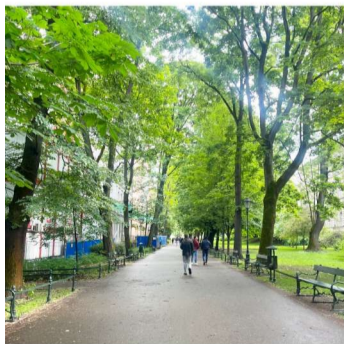
ミュージアムロードから車道を廃止、歩行者専用道路に変更。

4 移動手段を増やすマイクロモビリティ

2輪～4輪まで、複数種類を段階的に導入する。

7 まちを維持する「ミニ・インフラハブ」

案内・美化・給電の機能を併せ持つハブを設置。



▲クラクフ・旧市街外周の緑道
一部交差点を除いて一般車両は進入ができない。一年を通して市民の憩いの場として、また安全にまちを散歩するためのルートとして利用されている。



▲クラクフ・ヴィスワ川
軽車両と歩行者の2レーンに分かれており、軽車両ゾーンでは自転車をはじめ電動スクーターやセグウェイが走行している。レーンの分離により、車両・歩行者双方が安全に移動できる。



▲ウィーン

街中で見かけたリトファスソイレ（円柱状の案内板）



PHASE V : 緑のネットワークの完成。環境リスクの緩和へ

8 海と山をつなぐ緑のネットワーク

歩道の更新に合わせ、道路上に樹木を増やす。

9 緑のインフラとしてのまちなかビオトープ

歩道の更新に合わせて、道路の上にビオトープをつくり、親水空間として維持する。



▲バンコク・スクンビット通り
沿道や高架上の樹木により歩道の日射を緩和する。



▲港区・外苑いちよう並木
15～30m級のいちようの木が並び、美しい都市景観をうむとともに歩道に木陰を作る。



▲渋谷区・代々木公園の池
水辺に段差を設けないことで、動植物と人間の居場所が一体的に感じられる。



▲八千代市・いしいさんの庭
ビオトープにより、あらたな生態系がうまれている。